

だいせんチャンネルの充実を

近藤議員

町長

可能な範囲で取り組む

〔近藤〕だいせんチャンネルの放送は、地域のコミュニケーション増加に役立っていると思うが、普段の番組は、月に3本制作される「じげとびつく」しかない。じげとびつくの拡充、町長や議員、町民同士が地域のことを語



り合うような番組など、放送内容の充実をどう考えているか。
〔町長〕じげとびつく以外の番組は、議会中継、議会常任委員会の様子、民生・児童委員の活動内容の紹介、各種講演会の模様などを放映している。
新しい企画は、取材可能な範囲で取り組みたい。また、行事などを撮影したビデオ投稿も増えているので、引き続きP



取材をする撮影スタッフ

Rをしていきたい。
〔近藤〕実際にどれだけの町民がだいせんチャンネルを見て、どのような改善を望んでいるかなど、年に1回は調査をすべきでないか。
〔町長〕平成21年秋に、補助事業を活用して全戸で調査した。今後は、アンケート調査などを実施して、番組制作の参考にしていきたい。

〔近藤〕3月に提案があつて否決になった名和地域休養施設山香荘の整備案が、再提案される。3月の提案との違いは。
〔町長〕3月の提案では、合宿の誘致やツーリズムの促進で交流人口の増加、地域経済活性化と地域休養施設運営の健全化を中心にしていた。今回は、町民利用がしやすいことにも比重を置いた。

どう活かす山香荘

近藤議員

町長

集客と住民利用を両立させる

〔近藤〕施設整備の目的は何か。グラウンドや、山香荘の施設を今後どのように活用する方針か。

〔町長〕「全国からの集客」と「住民の利用の促進」を両立させることは簡単ではないが、それができる施設整備と、運営する事業者の選定

に努めていく。
この施設は、大山恵みの里づくり計画の中央観光軸の中核に位置する。ここに多くの人が集い、神田地区だけでなく大山北麓のエリア全体を活性化する拠点施設となるよう、期待している。



活用が課題の遊具広場